

『和泊町の歩み』執筆者  
リレーメッセージ

## 「えらぶ」の成り立ちに迫る

『和泊町の歩み』自然編の執筆に寄せて



総合地球環境学研究所教授 新城 竜一氏

自然編執筆者（地質担当）

私は『和泊町の歩み』自然編のなかでも、地層や岩石に関わる  
ところを担当します。「えらぶ」がどのようにできたのか、イメージで  
きるような内容にしたいと考えています。

島をつくっている地層は、大きく3つ（根折層・火成岩・琉球石灰岩）に分けられます。根  
折層が島で一番古く、知名町の大山にあります。見事な枕状溶岩を見つけました。越山に  
は花こう閃緑岩が分布します。この機会に、この岩石の年代測定をしようと思っています。  
ジルコンという微小な鉱物を取り出し、レーザー質量分析計でウランと鉛の同位体を測定す  
る方法を使います。どのような結果が出るか、楽しみです。

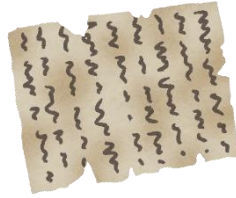
島の大部分を占めているのは、琉球石灰岩です。近づいて観察すると、サンゴ片を多く  
含んだ「サンゴ石灰岩」、数センチ大の球状の化石を含んだ「石灰藻球石灰岩」など、見た  
目が異なる多様な石灰岩が見つかります。この多様性がどのようにできたのか、岩石や露  
頭の写真を紹介しながら記述したいと思います。

## 島で再発見された『本城家文書』

編さん室で解読作業を行いました！

令和4年1月11日、藩政時代の島役人の子孫、本城秀紀氏(和泊町皆川)から1冊に綴られた古文書が資料として提供された。筆書きの行書体古文書である。解読すると33点の文書があり、内容は大きく4つに分類できた。

- ①幕末のペリー来航に関する海防策文書
- ②島役人たちが作った和歌や古典文学の抜粋
- ③玉城と内城の間に架けられた石橋の碑文
- ④その他、様々な用語や漢詩の抜粋

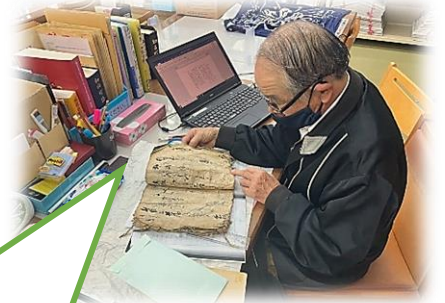


古文書の少ない本島では貴重な一冊である。170年前の島役人の教養の高さと全国的な情報を入手していた証拠となる資料である。

(解説:先田光演・執筆編集員)



『本城家文書』が編さん室に持ち込まれた時の様子です。



解読作業には2か月を要しました。古く傷みが進んだ古文書を一枚ずつ、慎重にめくりながらの作業です。町立図書館郷土資料室の資料もフル活用しました。



### 第2回歩み編さん事業審議会

令和4年3月18日(金) 役場2階会議室

第2回『和泊町の歩み』編さん事業審議会が3月中旬、会長を務める永野利則議長など出席のもと、役場2階会議室で開かれました。令和3年度の事業全体の取り組みや進捗状況を報告したほか、今後の見通しとして、刊行した『和泊町の歩み』の送付先や頒布の方向性、刊行後の活用策など多くの議題について協議しました。

令和4年度は各分野の原稿執筆作業と編さん室による編集作業が続く一方、印刷業者選定に向けた情報収集等にも取り掛かる予定です。令和5年度の刊行を目指し、着実に歩みを進めている『和泊町の歩み』編さん事業です。

### 『和泊町の歩み』編さん室(事務局)

〒891-9112

大島郡和泊町和泊591番地

町立図書館 1階 郷土資料室内

TEL: 0997-92-3690 (内線750)

和泊町教育委員会生涯学習係

TEL: 0997-92-1111 (内線366)

担当: 木場浅葱(学芸員)

先田光演(執筆編集員), 市来美穂(編集助手)



## まーちもーり

歩み編さん事務局では古い写真や古文書等の資料を探しています。提供いただいた資料は複写した上で必ずお返ししますので、お心あたりの方はご一報を！事務局は町立図書館内です。いつでも、お気軽にお立ち寄りください。

